

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年5月29日現在

今月の重点活動

■新規就農支援 **西濃地域（海津）就農支援会議の開催**

5月14日に西濃農林事務所主催で、県就農支援センター研修生を円滑に就農に導くための支援会議を開催した。

第1回目の開催となる今回は、冬春トマトの就農研修生4名と海津トマト部会（部会長、副部会長）、関係機関（JAにしみの、海津市、県（農業振興課、農業普及課））との顔合わせを行った。

会議は、就農支援会議の目的と今後の活動及び就農計画や補助事業の紹介の概要を説明したのち、2グループに分かれ、研修生との自由な意見交換を行った。今回、今後支援を進める関係者が、就農を目指す4名の考えなどを直接聞くことで、4名それぞれに対する今後の支援方向を共有することができた。今後も関係機関と役割分担をした中で新規就農者に対する支援を進めていく。



【研修生との情報交換の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー **ブロッコリー部会総会の開催**

ブロッコリー大垣部会総会及び反省会が5月16日に開催された。反省会において、農業普及課から昨年秋の大雨により定植時期が遅れ、その後も低温等により出荷が年明けにずれ込み作柄が悪くなったことを説明し、26年産については、ほ場選定、排水対策を徹底して行い、適期定植となるように説明した。また、品種については昨年試験栽培を行った2品種について良好な結果が得られたため今年度から体系に組み込んでいくことを提案した。

農家からは、雨により良い時期に定植ができなかったことが一番の問題であったことや定植機が部会所有の2台では足りないため、新たに機械購入するべきではないか等の意見がでた。



【反省会の様子】

売れる農畜産物づくり

■小麦 **品質の良い小麦の安定生産と水田の活用を研修**

5月28日にJAにしみの主催で「小麦現地検討会」が開催された。生産者と関係機関で180人が集まり8台のバスに乗り合わせ、午前中に養老町と海津市の小麦「さとのそら」の実証圃を巡回視察した。実証圃のさとのそらは4月16～23日に出穂し、出穂後防除が徹底され赤かびの発生もなく順調に生育している。

午後はJAにしみの本店において、農業普及課より小麦全般の生育状況とさとのそらの特性について説明し、良質小麦の生産を指導した。今後は各営農センター単位でより具体的に適期収穫の指導を行う。

また、この検討会では水田の担い手による加工用たまねぎの取組みと、水稻乾田直播栽培について現地視察が行われた。座学ではブロッコリーの生産拡大の呼びかけも行われ、参加した生産者は土地利用型農業の経営改善にむけて研修した。



【小麦現地指導】



【さとのそらの説明】

■きゅうり **アザミウマと天敵の調査実施**

海津胡瓜部会では、3年前から、ミナキイロアザミウマの防除対策として天敵（スワルスキー）を利用している。平成26年産の半促成栽培では、生産者11戸、2.3haで、2月下旬に天敵を放飼した。農業普及課では、放飼後、定期的に害虫の発生と天敵の寄生状況を調査し、効果確認と利用方法の検討を行っている。一部アザミウマが増えすぎてしまった生産者があるものの、大部分は、天敵が定着し良好な状況で、化学農薬の使用削減にも繋がっている。

■ねぎ **総会及び目揃会の開催**

神戸町下宮青果部会協議会グリーンねぎ部会の総会及び目揃会が5月9日に開催された。25年度の出荷量は前年比89%、販売金額は前年比108%であった。

目揃会では、市場の情勢報告の後、出荷規格、協約事項などについて意識統一した。農業普及課からは、26年度の栽培暦、栽培履歴について説明し、農薬安全使用と生産性向上について指導した。また、グリーンねぎの消費拡大につなげるために考案した「ねぎ丼」および「ねぎカレー」の試食も行われた。

■マコモタケ **水田に植付け**

大垣市マコモタケ研究会は5月2日西大外羽の水田にマコモタケを植付けた。昨年のマコモを株分けし2本ずつ条間2m、株間1.8mで移植した。

今年は38a（早生26a、中生12a）栽培する計画であり、この日は苗株ほ場2筆を残し研究会員5人で作業を行った。

普及課とJAにしみの担当者は現地指導を行い、市役所とJAにしみのの広報は現場取材を行った。



【マコモタケの植付け】

■なし **カメムシ発生生予察調査及び防除情報の提供**

チャバネアオカメムシを対象としたフェロモントラップを大垣市内2か所に設置し、発生予察調査を実施中。調査結果について研修会等で生産者に情報提供を実施している。

両地点において5月14日から誘殺数が増えている状況であるが、梨ほ場では現在発生していない状況である。誘殺結果及びカメムシ防除対策を速報により組合員に情報提供した。

戦略的な流通・販売

■6次産業化の推進 **南濃地域柿加工**

4月30日に海津市農林振興課、JAにしみの総合企画部女性課、農林事務所農業振興課、農業普及課の4者で、南濃地域の柿の加工開発について、打ち合わせを実施した。

柿の6次産業化を進めたいとするJAは、規格外の柿を「柿酢」にし、将来的にはプラントまでつくることを考えており、現在、中部大学応用生物学部で柿酢の試作を行っている。また、海津市も別途開発を検討していたため、歩調を揃えるため現状を確認し、各組織に持ち帰り検討することとした。

なお、将来的にハード整備の補助が必要になるのであれば、総合化事業計画も作成していくことになる。

県民みんなで育む農業・農村

■食農教育支援 **城山小学校カキ摘蕾体験学習**

海津市南濃町の城山小学校では農業体験学習の一環としてカキの栽培体験学習を行っている。その中で、5月23日に摘蕾体験を行った。

農業普及課から資料を基に摘蕾の重要性について説明を行った。